

平成24年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・通年・B群	
	対象学科・専攻	電気電子工学科	
制御工学Ⅰ・Ⅱ (Control EngineeringⅠ・Ⅱ)	担当教員	逆瀬川 栄一 (Sakasesgawa, Eiichi)	
	教員室	電気電子工学科棟3階 (TEL: 42-9073)	
	E-Mail	sakasegw@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態/単位の種別/単位数	講義 / 学修単位 [講義Ⅰ] / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100分) + 自学自習 (80分)] × 30回		
[本科目の目標] 制御理論の基礎となるラプラス変換についての理解を深め、伝達関数やブロック線図などの自動制御に関する基礎知識を習得し、さらにステップ応答や周波数応答、安定判別などの制御系設計技術に適用できる能力を養う。			
[本科目の位置付け] 微積分、複素数、ベクトル図、ラプラス変換などの数学的知識や、電気回路の知識が必要である。第二種電気主任技術者の資格取得 (所定科目の単位を取得し、卒業後5年以上実務経験が必要) を希望する者は必修。			
[学習上の留意点] 教科書や適宜配布するプリントを用いて、予習・復習を十分に行うこと。また、講義の内容をよく理解するために、毎回、予習や演習問題等の課題を含む復習として、80分以上の自学自習が必要である。疑問点があれば、その都度質問すること。			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 自動制御の基礎	2	<input type="checkbox"/> 自動制御の基本的な考え方が理解できる。	教科書p.1-p.10を読み、概要を理解しておくこと。
2. ラプラス変換	4	<input type="checkbox"/> 指数関数・三角関数などの基本関数のラプラス変換が求められる。	教科書p.11-p.22を読み、概要を理解しておくこと。
3. 伝達関数	4	<input type="checkbox"/> 伝達関数の定義や重み関数と畳み込み積分の意味が理解できる。	教科書p.23-p.29を読み、概要を理解しておくこと。
4. ブロック線図	4	<input type="checkbox"/> 信号の流れを図的に表現する手段としてのブロック線図を理解し、ブロック線図の直列・並列・フィードバック結合等の等価変換が行える。	教科書p.29-p.35を読み、概要を理解しておくこと。
— 前期中間試験 —		授業項目1~4について達成度を確認する。	
5. 過渡応答	4	<input type="checkbox"/> インパルス応答、ステップ応答などの時間応答とその物理的意味が理解できる。	教科書p.36-p.50を読み、概要を理解しておくこと。
6. 周波数応答	4	<input type="checkbox"/> 比例・積分・微分・1次遅れ・2次遅れ・むだ時間要素などの基本的要素のボード線図・ベクトル軌跡・ゲイン位相線図が描ける。	教科書p.51-p.72を読み、概要を理解しておくこと。
7. フィードバックと安定性	2	<input type="checkbox"/> フィードバックの効果および安定条件が理解できる。	教科書p.73-p.79を読み、概要を理解しておくこと。
8. 安定判別法	4	<input type="checkbox"/> ラウス・フルビッツ・ナイキストの方法で安定判別ができる。	教科書p.79-p.93を読み、概要を理解しておくこと。
— 前期期末試験 —		授業項目1~8について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2	各試験において、間違った部分を理解できる。	
9. 安定余裕、Mp 指標	4	<input type="checkbox"/> 安定余裕(ゲイン余裕、位相余裕)をベクトル軌跡、ボード線図で理解できる。 <input type="checkbox"/> Mp 指標を理解できる。	教科書 p.94-p.97 を読み概要を理解しておくこと。
10. 定常、過渡特性	4	<input type="checkbox"/> 定常偏差の設計、インパルス、ランプ応答の過渡特性を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 過渡特性の性能を理解できる。	教科書p.98-p.107を読み概要を理解しておくこと。
>>> 次頁へつづく >>>			

